

**bluememe**  
MODEL & DESIGN YOUR BUSINESS

2026年3月期 第3四半期決算説明資料

2026年2月13日

<b>01</b>	会社概要	>	<b>03</b>
<b>02</b>	2026年3月期 第3四半期業績	>	<b>08</b>
<b>03</b>	事業拡大に向けた戦略	>	<b>14</b>
<b>04</b>	2026年3月期通期業績予想	>	<b>16</b>
<b>05</b>	取組施策	>	<b>18</b>

1

# 会社概要

---

bluememe

## BlueMemeの企業理念

### 新たな価値を創造し、常識を変え、文化を進化させる

当社の社名であるBlueMemeは、「光り輝く」という語源をもつ「Blue（ブルー）」と、文化を形成する情報を伝える意伝子を意味する「Meme（ミーム）」という二つの単語から構成されており、これまでの常識に囚われることなく、新しい文化を形成するための新しい価値の創造を目指していくという、強い理念を込めております。

**Blue**

光り輝く

ブルー

**Meme**

文化を伝える意伝子

ミーム

# BlueMemeのミッション

---

ミッション

最新技術を活用した企業競争力の向上

**次世代型のシステム開発** によるビジネス変革で  
日本企業の **国際的競争力を確保** する

# 会社概要

**会社名** 株式会社BlueMeme (ブルーミーム)

**本社** 東京都千代田区神田錦町3-20 錦町トラッドスクエア10F

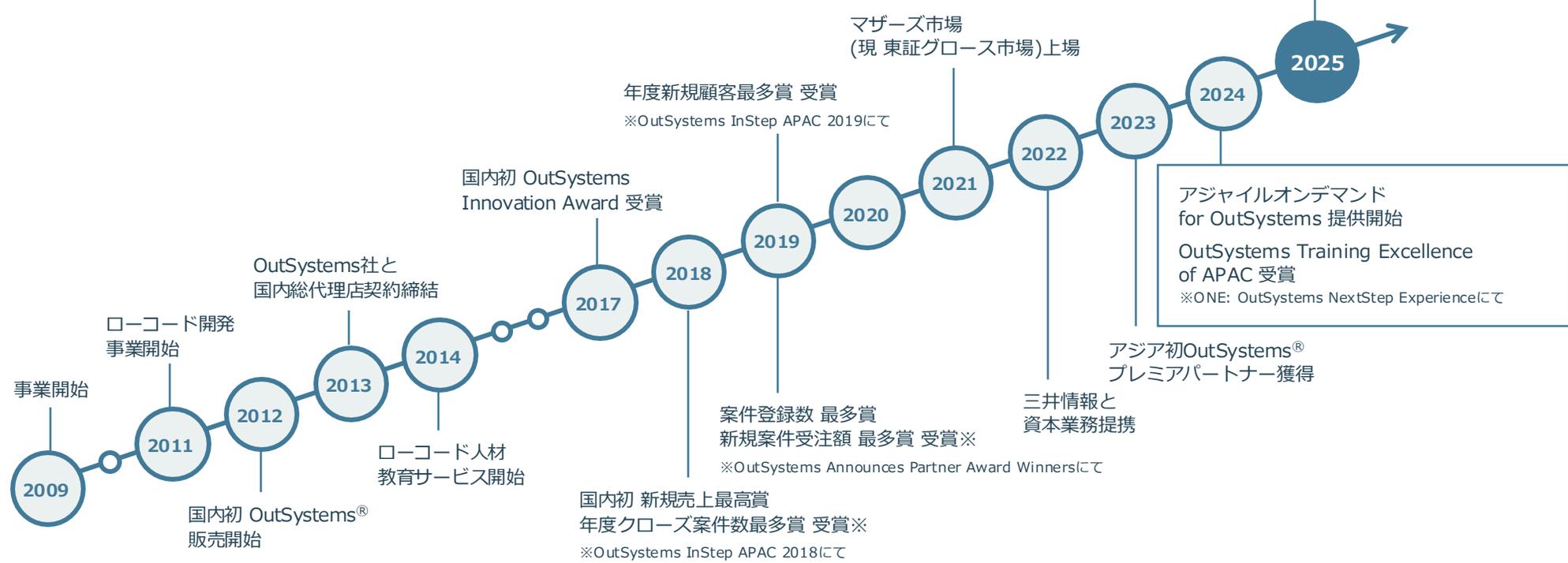
**従業員数** 178名 (2025年12月時点)

**主要事業** ローコード型アジャイル手法によるDX事業

**代表** 代表取締役会長 兼 社長 松岡 真功

マイクロコート株式会社を子会社化  
アルターデザインコンサルティング株式会社の設立

**APAC: Closed Deals Award 受賞**  
※OutSystems Partner of the Year Award 2024にて



## 会社概要

カブシキガイシャブルーミーム

# 株式会社BlueMeme

ローコードを中心に自動化技術を活用した  
次世代型のシステム開発を実現するIT企業

### 所在地

東京：千代田区神田錦町  
福岡：福岡市博多区博多駅前  
熊本：熊本市西区春日  
沖縄：浦添市港川

### グループ会社

株式会社OpenModels  
株式会社BlueMeme Partners  
マイクロコート株式会社  
株式会社アルターデザインコンサルティング



**松岡 真功**

代表取締役会長 兼 社長

ネット証券、外資系ERPベンダー、外資系システムベンダーにて、エンジニアリングとコンサルティングに従事。2009年にBlueMemeで業務開始。業務システムのコンサルティング事業開始後、ローコードによる業務システム開発の実現を積極的に推進。2026年2月より現職。



**朱 未**

取締役

組込み系、外資系ソフトウェアベンダーにて、ソフトウェア開発に従事。2010年にBlueMemeに入社し、アーキテクトとして、当社の研究開発及び技術全般を主導。執行役員 プロフェッショナルサービス部長、取締役 プロフェッショナルサービス部長を経て、2018年2月より現職。

2

2026年3月期 第3 四半期業績

---

bluememe

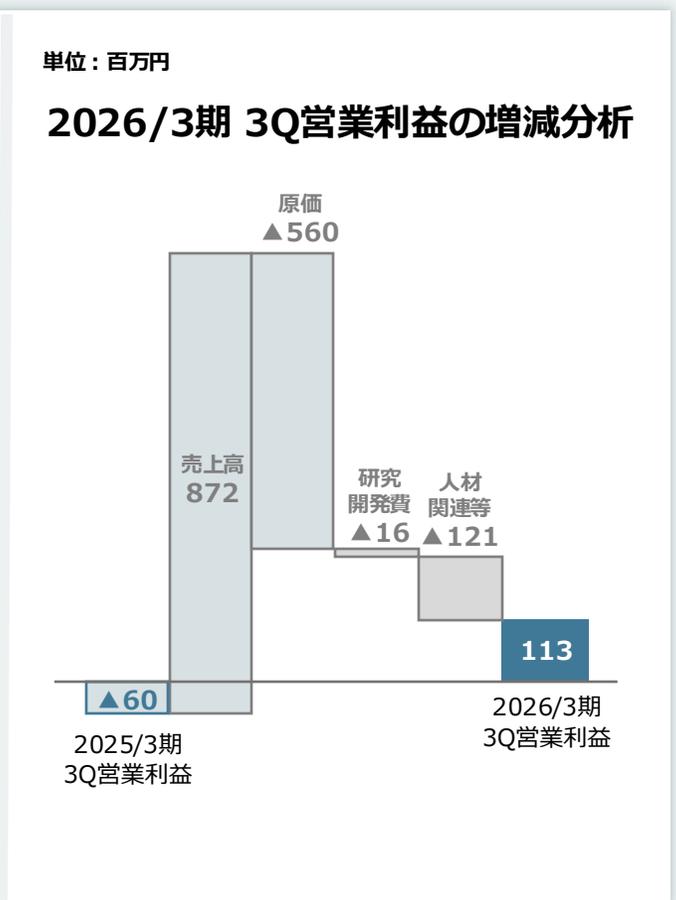
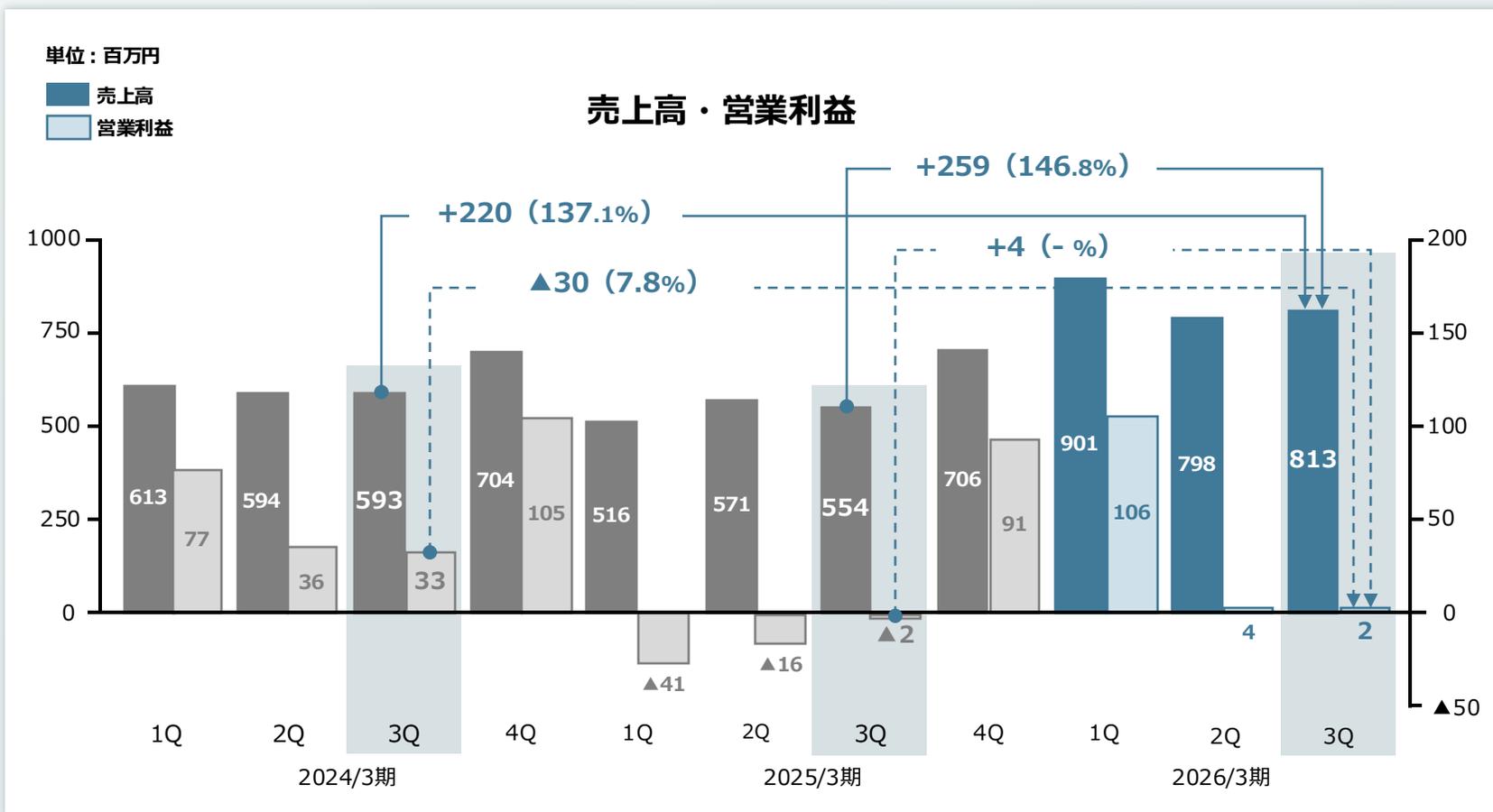
## 2026年3月期 第3四半期 決算ハイライト

- 売上高・利益ともに、通期予想に対しては順調に進捗
- 開発サービスの外注比率は改善傾向にあり、今後更なる抑制を見据えエンジニア採用を積極的に進めた結果、採用関連費用が一時的に増加
- 売上高・利益は、通期計画に対する進捗率から、通期業績予想は据え置き

	2025/3期 Q3	2026/3期 Q3	増減額	対前年同期比	2026/3期 計画	進捗率
売上高	16.4億円	<b>25.1億円</b>	+8.7億円	<b>153.0%</b>	33.0億円	<b>76.2%</b>
プロフォーマ EBITDA	0.8億円	<b>3.0億円</b>	+2.2億円	<b>369.7%</b>	5.0億円	<b>60.7%</b>
営業利益	▲0.6億円	<b>1.1億円</b>	+1.7億円	-	1.5億円	<b>75.8%</b>
経常利益	▲0.6億円	<b>1.1億円</b>	+1.8億円	-	1.5億円	<b>77.0%</b>
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲0.7億円	<b>0.7億円</b>	+1.4億円	-	1.0億円	<b>74.4%</b>

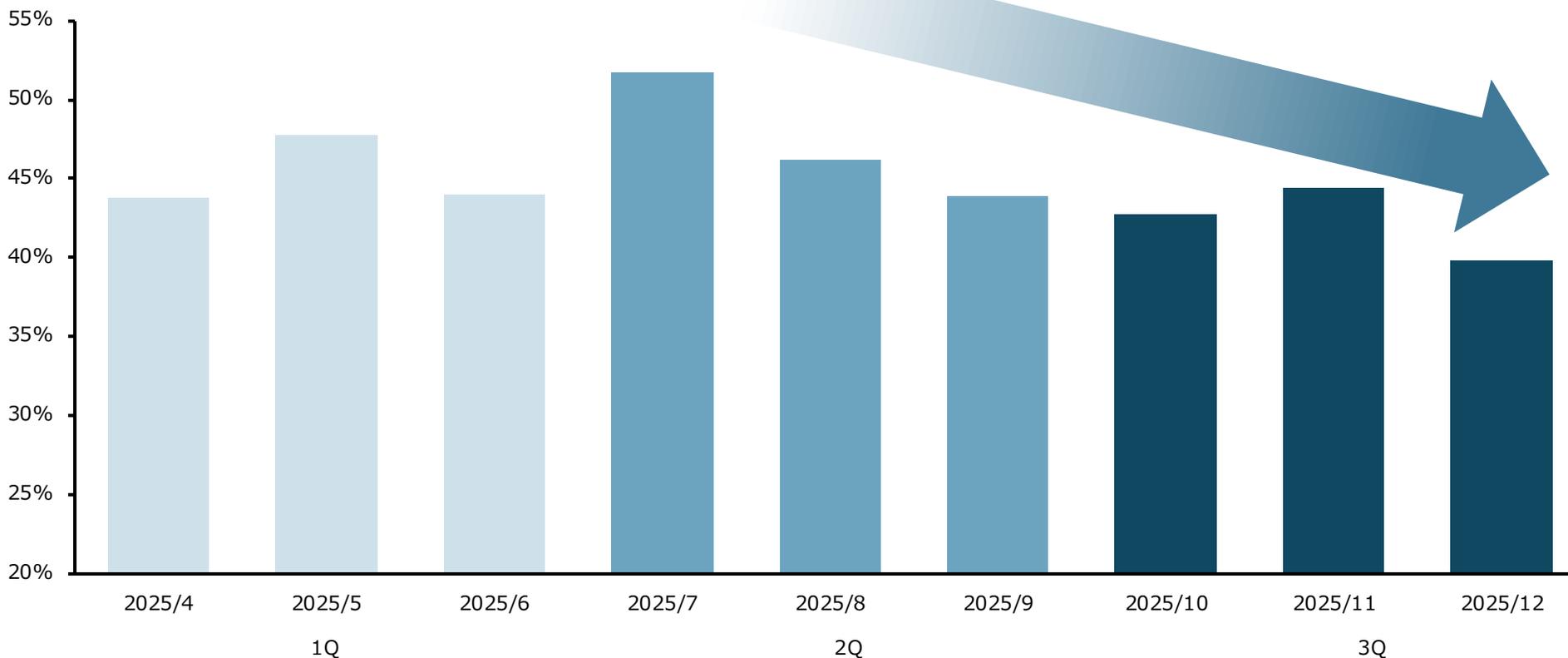
# 業績推移・営業利益増減分析

- 売上高は、第3四半期としては過去最高
- 利益額は、当四半期において外注費の抑制が進んだものの、なお一定水準で推移しており、加えて採用活動の強化に伴う費用増加も影響し、第2四半期と同水準で着地



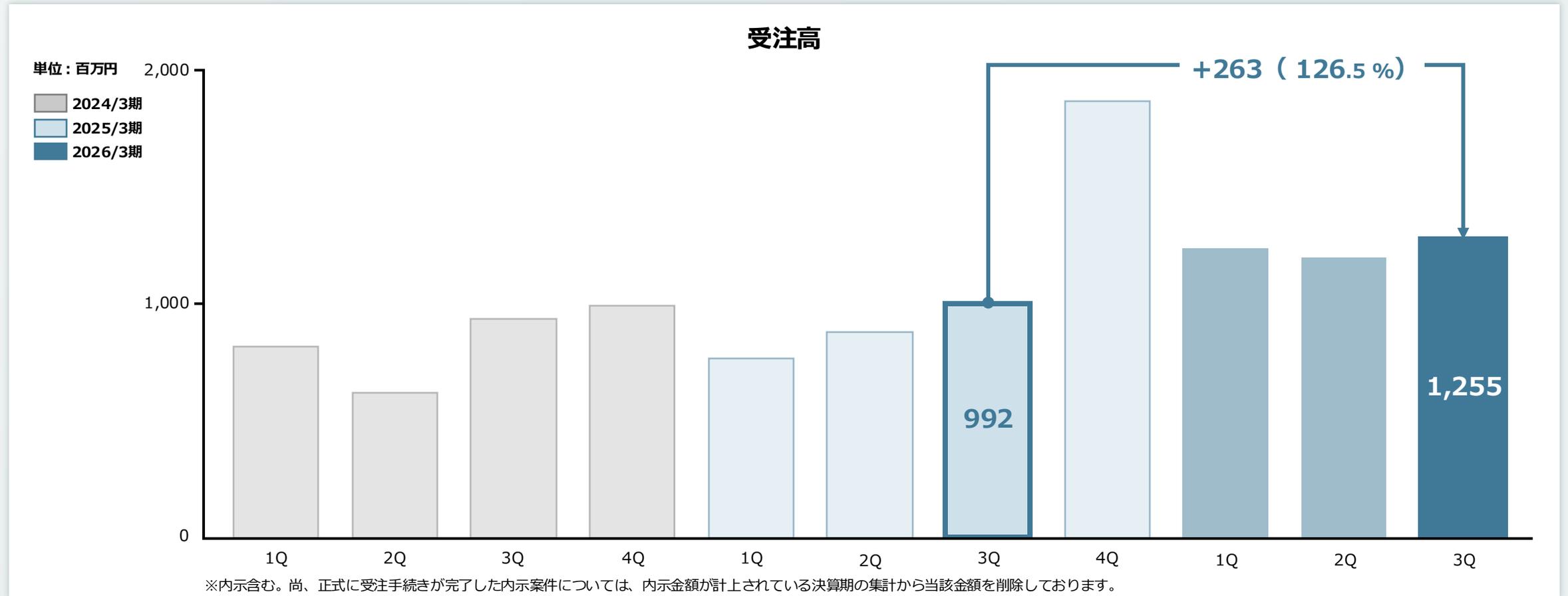
## サービス売上に占める外注比率の推移

- 第1四半期から第2四半期にかけて、受注残の順調な消化に伴いサービス売上に占める外注比率が一時的に増加
- 第3四半期は外注費の抑制を進めたことで、サービス売上に占める外注比率は低下傾向。第4四半期以降も抑制を進めることで、利益率の改善を図る



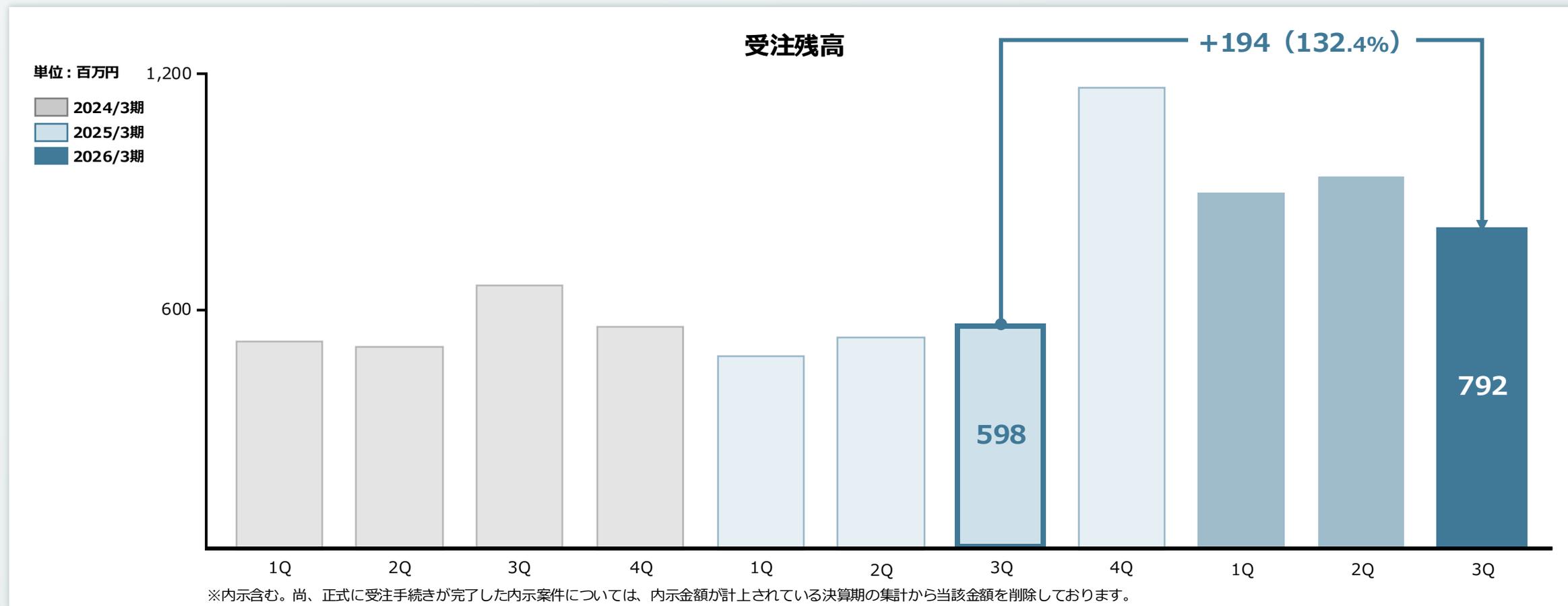
# 受注高の推移

- 第3四半期はライセンスを中心に受注を積み上げ
- 第2四半期とほぼ同水準の受注高を確保し、対前年同期比126.5%※での着地となった



# 受注残高の推移

- 前期及び当期に受注した大型案件は順調に消化
- 対前年同期比132.4%※の受注残高を確保



# 3

## 事業拡大に向けた戦略

---

bluememe

# BlueMemeデジタルエージェントサービス第1号案件が稼働、開発工数40%削減

- **医療基盤の刷新を完了し、短期間での本番稼働を実現**：通常半年かかるプロジェクトを、デジタルエージェント適用により3カ月で完遂
- **開発工数を約40%削減し、システム開発の圧倒的な効率化を実証**：手作業によるミスを自動化で防ぎ、スピードと品質を高い次元で両立
- **経営判断を即座に反映できる、開発スピードの獲得**：新機能の追加・改修を数カ月から最短1日へと短縮し、市場への即応力を強化

最新の自動化技術とアジャイル手法を統合した「BlueMemeデジタルエージェントサービス」を実案件に適用し、株式会社メディバリーの医療・ヘルスケアプラットフォーム「Bizcare（ビズケア）」のシステム刷新を完了。\*

時期	実装されたビジネス価値	開発のスピード感
2025/11/4	システム刷新 一次リリース完了	3カ月で刷新
11月中旬	ユーザー検索機能の高度化	依頼から8日間
12月中旬	コンプライアンス対応（法改正への即時追従）	最短1日（翌日）
12月下旬	決済・セキュリティ基盤の強化	継続的な週次更新
2026/1	医療DX推進機能（マイナ連携表示等）	止まらない事業成長

\*プレスリリース：<https://www.bluememe.jp/news/pressrelease/2026-01-29/>

# 4

## 2026年3月期 通期業績予想

---

bluememe

# 通期業績予想

- 売上高・利益ともに通期予想に対しては順調に進捗
- 通期計画に対する進捗率から、通期業績予想は据え置きとする

単位：百万円

	2025/3期 Q3実績	2026/3期 Q3実績	対前期 増減率	2026/3期 通期予想 (2025年5月公表)	進捗率	2026/3期 通期予想 (変更なし)
売上高	1,642	2,513	53.0%	3,300	76.2%	3,300
営業利益	▲60	113	-	150	75.8%	150
経常利益	▲63	115	-	150	77.0%	150
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲75	74	-	100	74.4%	100

(注) 金額は百万円未満切捨

# 5

## 取組施策

---

bluememe

# 国際学術誌掲載：BlueMemex九州大学、量子AI活用のゲノム解析技術を開発

- **量子機械学習モデル「QTFPred」を開発**※1、**国際学術誌**※2に掲載：九州大学との共同研究成果がバイオ情報科学の主要な学術誌に選出
- **データ不足を「QTFPred」で解決し、解析精度を大幅に向上**：従来のAIでは困難だった、少量の実験データによる高精度な予測を実現
- **創薬・医療分野への応用を見据え、先端技術の社会実装を推進**：疾患リスク予測や標的分子探索など、実用化に向けた研究開発を加速

## 本技術での実現が期待されることと主な応用例

- **希少疾患や最新研究での解析精度向上**：  
データが少ない領域でも高精度な予測を可能にし、解析の「空白地帯」を解消
- **創薬プロセスの効率化と期間短縮**：  
特定を加速し、新薬開発にかかる膨大な薬の標的となる因子のコストを削減
- **個別化医療に向けた疾患リスク予測**：  
個人の遺伝子情報に基づいた最適な治療選択や、発症リスクの早期解明に貢献

## 本技術と量子コンピュータの連携

- **量子計算による先行優位性の確保**：  
量子計算の仕組みを現行環境でシミュレートし、次世代技術の先行実装を完了
- **実機稼働に向けた技術ロードマップ**：  
将来の量子コンピュータ実機の普及時に、即座に性能を最大限引き出せる体制
- **従来AIを超える計算基盤の構築**：  
実機との連携により、現在のAIでは処理不可能な大規模データの高速解析を目指す

※1 「QTFPred: Robust High-Performance Quantum Machine Learning Modeling that Predicts Main and Cooperative TF Bindings with Base Resolution」 DOI : <https://doi.org/10.1093/bib/bbaf604>

※2 Briefings in Bioinformatics (Oxford University Press) Webページ : <https://academic.oup.com/bib>